

中部圏広域地方計画協議会

日時：平成 28 年 2 月 8 日（月）13:30～15:00

場所：名古屋通信会館 4 階 ユニオンホール

1. 開会

2. 挨拶

（国土交通省：西脇国土交通審議官）

- ・本日まで出席の各県、市町村、経済団体、関係省庁の皆さまにおかれては、平素より国土交通省施策に格段のご支援、ご協力を賜り御礼申し上げます。
- ・昨年 3 月に開かれたこの協議会からこれまでの間、今後の中部圏のあり方を示す中部圏広域地方計画について、熱心にご議論いただいた。
- ・本日は、世界ものづくり対流拠点を掲げる計画原案を取りまとめていただくことに、心から感謝申し上げます。
- ・本日はこの協議会に引き続き、国土交通広域連携中部会議が開催され、中部ブロックにおける社会資本整備重点計画が議論される予定となっている。
- ・社会資本整備重点計画は、昨年 9 月に全国計画が閣議決定された。その計画の中では、社会資本のストック効果の最大化を目指した戦略的なインフラマネジメントの徹底を掲げており、国土交通省としては、その取組の強化を図っていくところである。
- ・中部ブロックにおける社会資本整備重点計画では、広域地方計画の将来像を踏まえながら、その実現に向けて計画的に進めなければならない社会資本整備の方向性をとりまとめたと考えている。
- ・国土交通省では、人口減少下においても、社会のあらゆる生産性を向上させることで経済成長を実現させ、稼げる国土、住み続けられる国土を実現するために、本年を生産性革命元年と位置付けている。
- ・中部圏においては、まさに、ものづくり産業を基軸とした生産性向上により、世界ものづくり対流拠点として、我が国経済を牽引いただけるものと確信している。
- ・そのためには、広域地方計画の地域戦略、中部ブロックにおける社会資本整備重点計画に基づくインフラ整備、都道府県や市町村が策定する地方版総合戦略に基づく地方創生の推進、この 3 つの取組を連携させることに、国土交通省と致しましても総力を挙げて参りたい。

（会長：中部経済連合会 三田会長）

- ・昨年 3 月に第 1 回の協議会が開催され、まもなく 1 年となる。9 月には第 2 回の協議会が開かれ、今回が 3 回目となる。（11 月中部・北陸合同協議会開催）
- ・中部圏広域地方計画も徐々にまとまり、今回は、第 4 章の具体的プロジェクトの記載も加わり、全体像を議論する段階となった。
- ・9 月の協議会からのトピックスを交えながら、お話したい。昨年 11 月には MRJ が初飛行

を行った。現在までに3回飛行し、まもなくまた飛び始める。また、商用ロケットということで、H2Aが打ち上げられた。その後を受けて、H3ロケットを開発していくことにもなっている。

- ・1月下旬には、中部5県に跨るアジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区において、ロケットも新たに加わることになると報じられた。産業としての発展が期待される。
- ・地上では、次世代自動車が開発されており、商用化もされている。中部に大きな産業の芽が育ってきている。
- ・観光面では、昇龍道エリアの外国人宿泊者数が大変伸びている。今年の10月で既に631万人と、H29の目標であった600万人を大きく超えている。
- ・特に、北陸から岐阜高山への流入が増大しているほか、サミットの影響もあり、三重県にも多くの外国人の方が来ており、比率では一番伸びている地域となっている。
- ・まさにこのように中部圏は日本を引っ張っていく地域であると実感している。
- ・中部を取り巻く環境は刻々と変化しているが、今回策定する中部圏広域地方計画は、中部圏の動きを的確に捉えて、10年後に日本の世界ものづくり対流拠点を実現するとともに、30年、50年先を見据えた10年をどうしていくかという観点を持ち、日本を牽引し続けていく計画とすることが必要である。
- ・その結果、安全・安心で住みやすく、かつ、働きやすい地域であり続けることが必要であり、そのような計画としたい。
- ・本日は最後の協議の場となるので、皆さまには忌憚のないご意見をいただき、中身の濃い議論をお願いしたい。

3. 議事

(1) 新たな中部圏広域地方計画 計画原案(案)について

(事務局：中部圏広域地方計画推進室 大野室長)

- ・資料1、資料2、資料3、資料4、資料5説明

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・計画原案に関する意見、および、新たな中部圏広域地方計画を受けた各機関の国土形成に係る取組方針などについて、計画推進のフォローアップの進め方も含めて、色々な角度からご意見をいただきたい。

(長野県：関企画振興参事)

- ・2点申し上げたい。1点目は、リニア中央新幹線の効果を最大限に活かすことである。
- ・2027年のリニア開業に向けて、計画原案に記載いただいたが、本県では県駅が出来る飯田地域を中心に「リニアバレー構想」を策定している。この計画は、国土形成計画にも記載されているように、大きな国土軸の中で飯田地域をどのように位置づけるかということで、地元としても議論を進めてきた。
- ・名古屋から30分、品川から45分という時間的な距離において、都市環境の中で働きながら、大自然に囲まれた環境で暮らせるという好条件をどのように活かしていくか、県と国と市町村で協議を進めている。

- ・リニア駅へのアクセス道路の整備等を活用し、リニア効果を県内に行き渡せるよう、県としても取り組んでいきたい。
- ・2点目は、今回、中部・北陸圏広域連携として、北陸圏との連携を観光面や交通面など、多面的に取り組んでいきたい。長野県としても、中部圏が発展をしていくためには、北陸圏を含めた各圏域との連携が非常に重要だと考えている。
- ・昨年3月に北陸新幹線が長野ー金沢間で開業し、人の流れが大きく変化した。
- ・これまで長野と北陸地域とは、「近くて遠い」と言われていたが、今回1時間程度で結ばれたことにより、ビジネスはもとより、観光面での人の行き来が非常に活発になった。
- ・北陸圏と中部圏を結びつけるプロジェクトをどのように成功に導いていくかは、地域の取組次第である。中部・北陸圏広域連携のプロジェクトは、長野県としても積極的に取り組んで参りたい。
- ・地方創生の総合戦略の関係では、「信州創生戦略」として取り組んでいる。県の計画を中心とし、地方創生の取組と合わせて、人口が定着し、確かな暮らしが長野県で送れるような取組に力を入れたい。
- ・新たな中部圏広域地方計画の推進と合わせ、積極的に取り組んで参りたい。

（岐阜県：宗宮清流の国推進部長）

- ・グローバルな観点の産業振興、リニア中央新幹線の開業効果を踏まえた対流促進、さらには安全・安心の確保の観点から計画が策定されており、基本的には賛同させていただく。
- ・計画に記載されている施策は、私ども地方が地方創生を進める上で、いずれも欠くことができないものである。計画の確実な推進が重要である。
- ・本県の清流の国ぎふ2020プロジェクトでは、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年を節目とし、成長分野の企業誘致、交流人口の拡大等を図っていくプロジェクトを最重要プロジェクトと位置付けている。
- ・東海環状自動車道は、このプロジェクトを支える最も大事な基盤であることから、早期全線開通をお願いしたい。
- ・また、岐阜県は現在、世界遺産ブームである。「白川郷の合掌造り集落」が世界文化遺産登録されてから、昨年20周年を迎えた。また一昨年には、「本美濃紙」がユネスコ無形文化遺産に、また昨年には、「曾代用水」が世界かんがい施設遺産として、12月には「清流長良川の鮎」が世界農業遺産にそれぞれ認定された。また、高山・古川・大垣の祭りの「山・鉾・屋台行事」が、ユネスコ無形文化遺産に再提案されており、八百津町出身の外交官、日本のシンドラーと呼ばれている杉原千畝の「杉原リスト」が、ユネスコ記憶遺産の国内候補となるなど、岐阜県の地域資源が世界で高く評価されている。
- ・本県としては、貴重な地域資源を繋ぎ、観光誘客や交流人口の拡大等、隣県と連携して取り組んで参りたい。そのためには広域の交通ネットワークの整備が重要と考えている。
- ・このように、本県は、広域での連携、産業界等との連携に積極的に取り組んで参りたい。

（静岡県：森企画広報部長代理）

- ・世界ものづくり対流拠点中部の推進に向かって、静岡県も全力で取り組んで参りたい。

- ・提言を1点と、説明を1点させていただきたい。
- ・H28.2.18開催予定の第19回国土審議会で、本県知事から交通系ICカードに関する鉄道事業者間のまたがり利用について提言したいと考えている。
- ・東京オリンピック・パラリンピックの開催もあり、今後観光立国を推進するためには、JR東日本とJR東海をまたがる区間（静岡県では熱海と函南）などについて、外国人等から不便だと言われていることもあり、全体の問題として捉えていただき、中部圏広域地方計画にその点についても盛り込むべきではないだろうか。
- ・具体的には、例えば資料4のP76の(2)「訪日外国人旅行者の受入環境水準の向上」の3段落目に「首都圏からの誘客を含めた中部圏の観光交流促進のために、交通系ICカードに関する鉄道事業者間のまたがり利用を可能とし、外国人旅行者の公共交通利用の利便性を高めていく」もしくは、P75に③として鉄道という項目を設けて盛り込んだらどうだろうか。
- ・熱海と函南は静岡県の話だが、米原と関ヶ原もJR西日本とJR東海のまたがりである。リニア中央新幹線ができれば、塩尻の周辺でもJR東海、JR東日本の話が出ようかと思うので、中部の話全体として捉えていただき、ひいては日本の観光誘客につなげるという意味で御理解いただければありがたい。
- ・もう1点、資料4のP99について、静岡県の「ふじのくに型「人生区分」と記載しているが、それについて説明させていただきたい。
- ・現在は、定年が60歳、65歳以上が高齢者と言われているが、それは、平均寿命が60代のころにつくられたもので、現状は、女性の平均寿命が90歳近くであり、本県の健康寿命は女性が76歳程度まで伸びている。「ふじのくに型「人生区分」」は、46～76歳までは壮年期とし、それ以上を高齢者という区分でやっていったらどうかという提案である。これが、全国に広まっていけばと思っている。

(愛知県：藤田分権・広域連携監)

- ・人口減少、高齢化の中で、東京一極集中を是正していくには、中部がリニア効果を最大限に発揮し、世界ものづくり対流拠点として、我が国の成長を牽引していくことが必要であり、その方向性について、的確にまとめていただいたことに感謝申し上げます。計画原案については、基本的に了承したい。
- ・中部圏広域地方計画において、中部圏のセンターとして、名古屋大都市圏や中京大都市圏が、社会的・経済的中枢圏としての魅力を増大させ、中部圏を牽引していくという方向性を位置づけていただいた。
- ・本県も同様の考え方に立っており、交通ネットワークの整備、空港や港湾といった国際交流基盤等の整備・機能強化、名古屋都心部等への高次機能集積などの取組を進め、国内外から人・モノ・カネ・情報呼び込み、世界の中で存在感を発揮できる大都市圏の実現を目指している。
- ・こうした考え方が、中部圏広域地方計画に位置づけられたことは、大変心強く感じている。
- ・国においては、中部国際空港の完全24時間化、名古屋港の機能強化や名古屋環状2号線

の整備など、国際競争力のある大都市圏の実現に不可欠な事業を、早期かつ着実に実施していただきたい。

- ・本県としても、国の取組、あるいは各縣市との連携も図りながら、相乗効果を発揮できるように取り組んで参りたい。

(三重県：竹内戦略企画部長)

- ・本年5月の伊勢志摩サミットの開催に向けて、三田会長をはじめ、各省庁、各県市の関係者の皆様に大変ご支援をいただいております、心よりお礼を申しあげる。
- ・計画原案については、本県の提案も概ね反映していただいております、基本的に了承させていただく。
- ・中部圏広域地方計画を効果的に推進するためには、全国計画、各県市の総合計画との整合、連携を図ることが非常に重要である。
- ・本県は、4年前に策定した総合計画「みえ県民力ビジョン」に掲げる理念の実現に向けて、来年度を初年度とする4年間の計画である第二次行動計画を策定しているところである。
- ・「みえ県民力ビジョン・第二次行動計画」を通じ、中部圏の目指すべき将来像の実現に貢献して参りたい。
- ・社会資本整備の関係では、本県は、中部と近畿圏の結節点に位置しており、南海トラフ地震、大規模水害等、甚大な被害が危惧される中で、災害に備えたネットワークの多重性、代替性の確保が非常に重要な課題だと考えている。
- ・今回の計画のサブタイトル、「世界ものづくり対流拠点中部」を実現するためにも、圏域を超えた重層的な連携・取組が必要だと考えている。
- ・本県の社会資本整備は、一定の進捗を得ているものと、道半ばのモノがある。
- ・今後、中部圏広域地方計画に掲げられた具体的な取組を進めるにあたり、東海環状自動車道西回り区間をはじめとした高規格幹線道路の整備、伊勢志摩サミットに向けた社会資本整備の推進について、今後ともご協力をお願いしたい。
- ・リニア中央新幹線の関係においては、今回の計画原案では、名古屋駅以西の整備に関する具体的な記載は見送られている。本県は、近畿圏広域地方計画協議会にも参加しているが、リニアの大阪延伸の遅れに対する近畿圏の経済界、各府県市の想いは相当なものであり、本県も同様に想いを共有している。
- ・2050年のスーパー・メガリージョンの実現には、リニア中央新幹線の早期全線整備が不可欠である。そのためには、国家的プロジェクトとして、早期実現に向けた取組を推進していただきたい。
- ・少なくとも、地域の課題認識として、名古屋以西の早期整備が必要であるという点について、ご理解を賜りたい。
- ・最後に、今回の中間整理に対する市町村からの提案も行われているところだが、中部圏広域地方計画は、各市町村においても非常に重要な位置付けになると考えているので、できる限り、市町村意見の反映、並びに反映状況の報告等、丁寧な対応をいただければと思う。

(静岡市：赤堀企画次長)

- ・暮らしやすさと歴史文化に彩られた世界ものづくり対流拠点中部、これはまさしく中部圏が目指すべき将来像であると感じている。
- ・静岡市では、平成34年度までの静岡市第三次総合計画を策定した。そこでは、歴史文化のまち、健康長寿のまちを目指し、ないものねだりより、あるもの探しということで、今ある地域資源に磨きをかけていこうというシティセールスに取り組んでいる。
- ・今回計画の「基本方針3 地域の個性と対流による地方創生」は、まさしく静岡市が目指すところと同じ方向である。
- ・静岡市は長い海岸線を有しており、南海トラフ地震の被害についても危惧するところである。津波避難施設の整備、防災スマートタウンの整備を進めるとともに、今年4月1日からは、近隣市町3市2町で消防救急広域化の実施も予定している。本計画の「基本方針4 安全・安心で環境と共生した中部圏形成」と連携しながら、静岡市の取組みを進めて参りたいと考えている。

(浜松市：山名企画調整部長)

- ・今回の計画は、人口減少が進展する中で、リニア中央新幹線の開業、南海トラフ地震をはじめとした自然災害への対応ということで、本地域にとって、重要な諸課題を取り上げていただいている。合わせて、中部圏の強みであるものづくりを基軸としたさらなる発展を目指すということで、大変時宜を得た適切なものだと認識している。
- ・現行計画に引き続き、浜松市としては、三遠南信地域の取組みが、事業の一つとして位置付けされていることに感謝申し上げるとともに、三遠南信地域の更なる連携強化に資するというので、三遠南信自動車道の全線開通についても、一層の配慮をお願いしたい。
- ・私どもとしては、県境を越えた広域連携の先駆けとして、三遠南信地域連携ビジョン推進会議に取り組んできた。こうした取組をはじめ、地域における産学官金の多様な連携、具体的には、光電子技術を基盤とした新産業の創出等を目指す、浜松・東三河ライフフットノクスイノベーション構想等を推進している。また、災害時の救出・救護、応急等の職員配備、資材、物資供給に関しても、27市町村が締結している三遠南信災害時相互応援協定といった取組を行っていることから、今後も引き続き展開して参りたい。

(名古屋市：中田企画調整監)

- ・今回の計画について、多方面にわたり、様々な観点からまとめられており、方針、プロジェクトについて、私どもの考え方と合致するものであり、本計画に基づいて、一致協力して進めていきたい。
- ・本計画の名古屋大都市圏の範囲について、30～50km圏という定義をいただいているが、私どもの総合計画ではもう少し広い範囲を名古屋大都市圏と定義している。変えてほしいという意図ではないが、私どもでは、違う使い方をしているということだけ、ご理解を賜りたい。
- ・スーパー・メガリージョン、名古屋駅スーパーターミナル化については、私ども名古屋市が責任を持って取り組んで行かなくてはならない極めて重要なプロジェクトであり、

一番大事な課題として取り組んで参りたい。力を入れて取り組んでいくので、是非協力をお願いしたい。

- ・人材育成、共助社会の形成ということで、ソフト面も非常にたくさん取り上げていただき、基礎自治体として感謝申し上げます。
- ・大学は熱源を持っている。本計画では、COC+を取得している大学での人材育成が示されているが、私どもとしては、地方創生の中で大学が大事だということで、名古屋市としても大学教育に力を入れて行きたいと考えている。
- ・名古屋市内では、名古屋学院大学がCOCに関わっているので、それらも踏まえた記述を検討して頂ければと考えている。

(中部森林管理局：江坂計画保全部長)

- ・私ども中部森林管理局は、中部という名前の付く国の出先機関で、唯一長野市に位置し、富山県、長野県、岐阜県、愛知県の森林の約3割を占める、約65万haの国有林を管理している。名古屋市の都市近郊の森林から、日本アルプスの山岳地域までを管轄しており、その多くは脊梁山脈や重要な水源地となっている。国有林の管理経営にあたっては、木材の供給等様々な事業を私ども自らが実行している。高山植物、天然ヒノキ林など貴重な生態系の保全や、各地で農地や森林に被害を与えているニホンジカの対策についても、関係自治体と連携して取り組んでいる。
- ・現在の最重要課題として、山村地域の振興や地域経済の活性化にも寄与する林業・木材産業の成長産業化に取り組んでいる。
- ・例えば三重県の伊勢神宮への御用材を供給するなど、地域の伝統や文化の貢献にも努めている。
- ・近年は、戦後に植林された人工林が利用できる時期となっており、一時は20%以下まで落ち込んだ我が国の木材自給率は30%台を回復し、管内においても、大型の製材工場や、木質バイオマス施設などが次々に立ち上がるなど、中部圏一体となって、林業・木材産業の成長産業化に努めた取組を行っている。
- ・広域地方計画の実現に向けて、関係省庁、地方自治体と連携して取り組んでいきたいと考えているので、協力をお願いしたい。

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・今回の計画で、第4章が加わり、大変立派なものが出た。関係機関の方々に、熱心な議論いただいた成果だと思う。感謝申し上げたい。
- ・第4章で、方針1~5の具体的方策が示された。この5つの方策は、独立したものでなくて、それぞれ絡み合って成果をなしていくものだと言える。1つのものだけを目指せばいいのではなく、それぞれがバランス良く成果をあげていくことが将来の発展につながっていくのではないかと。
- ・まさに地方創生で言われているように、地域が自立して提案し、それを活動の要としていく中で、どうしても地域の中でできないこと、達成するために不足することを国にお願いし、協調してやっていくことが重要である。
- ・実現していくためには、広域連携が何より重要である。各県、各市だけでやっ

成功しない。県境を跨ぎ、市町村の領域を跨ぎ、特にそれを実施していただく行政の方々が連携することが、この要になるのではないか。

- 是非、それぞれの行政で方針を立てていく中で、明確に表して連携を深めていっていただきたい。
- 一番良い例は、昇龍道プロジェクトである。9 県を跨いでやっているが、昨年秋に、初めて6つのルートを設定した。これも、ひとえに各県の皆さんの協力で出来あがったものである。これを海外へ持って行って、商品として提示した時に、大変有効な商品としてPRができた。まさにこれが広域連携であると感じた。
- ここに定義されている5つの方針も、同じような広域連携を進めることにより、何倍もの力をもって進めることができると思う。それが、我々がやろうとする、自立する、発展する機運であると思う。
- フォローアップについても記述されている。今後、これを実現するためには、しっかりとしたフォローアップが必要だと思うが、具体的にいつやるのか、誰が責任を持ってやっていくのか、この点については、この計画が決定して動き出した時に初めて、具体的な関係部署が決まるかもしれない。しかし、確実に実施していくためには、例えば、1年後に内容をフォローアップしていくのだということを明記していただきたい。もしくは、議事録に残して、将来に向けて進めていきたいと考えている。是非、その点についても、よろしくお願ひしたい。
- 冒頭にお話ししたように、英知を結集して、素晴らしい計画が出来たと思っている。これから、皆様方と連携して、しっかりと進めていきたいというのが私の思いである。

(事務局：中部地方整備局 森山企画部長)

- 各構成員から多様なご意見をいただいた。ありがとうございました。
- 静岡県から、交通系 IC カードの関係の話があり、具体的に P76 あたりに書けないかという話があった。各事業者も関係しているが、一般論として、交通系 IC カードの利便性向上等、どんな表現が出来るか検討を速やかに進め対応したい。
- 三重県からは、リニア中央新幹線の名古屋以西についてのご意見があった。これについては、前回もご意見があったので、P70 の右側の上段あたりに、リニア中央新幹線をはじめ、陸海空交通ネットワークの早期整備と記述しており、その中に、リニア早期全線整備の気持ちを込めているということでご理解いただきたい。
- 名古屋市から、COC の関係の話があったが、P98 の右側の中段あたりに、地方創生推進事業 (COC) とあるが、これは大きな取組なので強調してはどうかという意見であった。表現については、検討させていただき対応したい。
- 会長から、特にフォローアップについて、しっかりとやっていくことを計画に書いてはどうかという話があった。現行計画でもプロジェクト毎にそれぞれ主担当、副担当を決めフォローアップは実施してきたが、これが十分だったかということ、必ずしもそうではなかったという反省もある。
- 今回は会長意見も踏まえてフォローアップにしっかりと取り組んで行くこととし、計画の中に、毎年度実施するということと、10 のプロジェクト単位毎等にとりまとめ担当を定め取り組んで行くことを記述したいと考えている。現行計画では、主担当が国の機関、

副担当を県にお願いをしてきたが、そういった前例を踏まえながら、事務局の方で考えたい。

- ・計画が決まり次第割り振る形とし、具体的にどういった形で行うか、しっかりとしたフォローアップ体制をつくっていきたい。構成機関には、自分のやるべきことをしっかりとやっていただきながら、フォローアップに関わっていただきたいと考えている。

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・事務局から回答を含め、色々と説明があったが、皆様から意見があればお願いしたい。
- ・計画原案の修正後の手続きはどのようにお考えか。

(事務局：中部圏広域地方計画推進室 大野室長)

- ・ご意見ありがとうございました。
- ・パブリックコメントを今月中旬から開始する予定としている。それにかかる計画原案については、本日の意見を踏まえ、事務局で検討・修正し、関係者に確認の上、会長に一任していただきたいと考えていますが如何でしょうか。

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・ただいまの件について、各構成員の皆様よろしいか。

※異議なし

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・特に異議がないということなので、計画原案については、そのように取扱いさせていただく。

(2) 計画決定に向けた今後の手続き

(事務局：中部圏広域地方計画推進室 大野室長)

- ・**資料6** 説明
- ・今後、パブリックコメントを踏まえた最終の計画案を協議会として決める必要があるが、大きな変更がなければ、構成機関の皆様を確認いただいた後、三田会長に最終確認をしていただいた上で、この協議会のでした承という形にさせていただきたいと考えているがいかがでしょうか。

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・パブリックコメントを踏まえた計画案の審議の仕方について、構成員の皆様方、ご意見はありますか。

※異議なし

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・特に異論がないということなので、そのように取り扱うこととしたい。
- ・計画策定、また、計画策定後のフォローアップも含め、引き続き構成員の皆様のご協力をよろしくお願ひしたい。

(国土交通省：本東国土政策局長)

- ・今回の計画は、今後 10 年間の中部の国土づくりの計画ということである。冒頭、三田会長からのお話にあったように、30 年、50 年といった長期を見据えた上での 10 年の計画である。
- ・全国計画では、この 10 年間で、日本の命運を決する 10 年と言っている。
- ・本格的に人口減少局面に入ってきたということと、南海トラフ地震をはじめとする巨大災害も切迫している中で、2020 年のオリンピック・パラリンピックまで元気にいけばいいということではなく、その後もしっかり見据える必要がある。この 10 年は長期的に見て、日本の将来にとって、非常に重要であるということである。
- ・中部にとっても、この 10 年は中部の命運を決する 10 年ということになると思う。
- ・積極的にご議論いただき、大変充実した内容の計画が出来つつある事は、大変ありがたい。
- ・とりわけ、今後 10 年を考えると、リニア中央新幹線の開業を 2027 年に控えており、その準備をしっかりとしていく期間になるかと思う。リニア効果を中部全体に波及させることは元より、中部と北陸との連携といったことも記述いただいている。
- ・さらに、中部・北陸に留まらず、三大都市圏というか、リニア中央新幹線沿線全体、さらには、日本全体、世界を視野に入れて、このリニア中央新幹線の開業に向けた中部の指針としていただけるとありがたい。
- ・リニア中央新幹線ができると、地方からの日帰りビジネス圏が飛躍的に拡大することになる。地方、あるいは、外国でも一緒だが、名古屋に来て、中津川や飯田でビジネスをやって、その足で東京へ行って、また戻って来るといったことが日帰りで出来るようになることは、非常に生産性の向上になり、イノベーションにもつながる。
- ・三大都市圏だけではなくて、地方にとっても、外国人にとっても、非常に意義のある構図となっている。
- ・防災、減災はどのブロックでも重要だが、とりわけ、世界ものづくり対流拠点を目指していく中部にとっては、その基盤となるのが、安全・安心、防災、国土強靱化である。ハード、ソフトの対策もしっかりと記述していただいているが、是非、力を入れて進めていただきたい。
- ・2 点目は、会長からも指摘のあった、広域地方計画の推進についてである。全国計画についても、策定して終わりではいけない。
- ・来週、国土審議会を開催するが、そこで改めて、今後の推進体制についてご議論いただき、計画の推進に向けての PDCA サイクルをフォローアップしながら、施策として必要なものについて、個別に具体化していくようなサイクルをつくっていききたい。
- ・広域地方計画についても、中部地方整備局から話があったように、しっかり PDCA サイクルを回していただけると思う。地方創生でも広域連携、官民連携等、政策連携が大変重要なテーマとなっているので、この中部の広域地方計画協議会で、非常に重要なブラッ

トホームを、地方創生の動きとも連動させて、活力ある地域づくりを進めていただければと思う。

- ・ 3 点目として、計画の推進と関連し、この計画の中に、計画推進の目標となる参考数値をできるだけ盛り込めればと思っている。これも、中部に限ったことではないが、計画を推進していく中で、何を目標にしてやっていくのか。最近よく KPI ということが言われているが、色んな分野で KPI、目標数値が掲げられている。各ブロックの横並びもとらしていただき、また、当然各ブロックオリジナルの数値でも良いが、充実を図りながらまとめをしていければと思っている。
- ・ 大変熱心な議論をいただきありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・ 以上で本日予定されていた議事は全て終了した。皆様のご協力で、議事が非常にスムーズに進行できたことに感謝申し上げます。

4. 閉会

(中部地方整備局：茅野局長)

- ・ 中部圏広域地方計画協議会の三田会長をはじめ、構成機関の皆様方には、昨年 3 月の第 1 回目の開催以降、熱心なご議論を賜り、本日、世界ものづくり対流拠点ー中部とする計画原案をとりまとめることができた。お礼申し上げます。
- ・ 今後、パブリックコメントを経て、国土交通大臣決定を目指していきたい。協議会の皆さまには、計画決定に向け、さらなるご指導をお願いしたい。
- ・ 中部圏の将来像の実現に向け、本計画を中部圏形成の基本的指針として、本協議会をベースに、皆様をはじめ、関係者が連携し、一丸となって取り組んでいくことが、重要であると考えている。引き続き、ご協力を賜るようお願い申し上げます。

以上